

675 酒井隆氏

淀川水系流域委員会様

酒井 隆

淀川水系流域委員会の審議にとって、重要なHP資料ですので、意見書として提出します。



京都の西、丹波の山々に囲まれるようにして亀岡盆地があります。千年以上続く田園地帯で、古くから川の水を利用して水田が作られてきました。川から水田まで生き物が自由に行き来できるため、水田や水路からもたらされる栄養分や外敵の少ない環境を求めて、多くの淡水魚がこの田園地帯に集まってきます。人々の営みと自然が調和を保って

きた亀岡盆地の水辺を訪ねました。

6月、水田には水が張られ、のどかな風景が広がります。



田園風景



田んぼと水路

古くから残る田んぼと水路。魚などの多くの生き物が、水路を伝って川と田んぼを行き来しています。

アユモドキはアユに似たドジョウです。田植えの時期に田園地帯に集まり産卵するため、昔ながらの農業が続けられている場所でしか生きられません。



アユモドキ



オイカワ

初夏になると、川の浅瀬でオイカワたちが競うように産卵を行います。

水田近くでは、産卵のため大きなナマズが巨体をくねらせながら水路を遡上(そじょう)します。



ナマズ

語り	稲垣秀人アナウンサー(NHK京都放送局)
取材地・取材時期 交通手段	<ul style="list-style-type: none"> ●取材地：京都府亀岡市保津川流域 ※生息地保護のため、詳細はご案内できません ●取材時期：2005年6月・9月 ●交通手段：京都駅から山陰線。普通電車で30分ほどで亀

<p>675 酒井隆氏</p> <p>登場する生き物 植物など</p> <p>より詳細な情報の 入手先</p>	<p>岡駅に着きます。</p> <p>登場する自然 ●亀岡盆地：桂川水系の源流、保津川が流れる水の豊かな盆地です。京都にほど近く、奈良時代には大規模な稲作が始められていました。いまでも古くからの用水路を利用した水田が残っています。 ●畦畔木（けいはんぼく）：「あぜ木」ともいいます。刈り取った稲を干したり、木陰で休憩するためにあぜに植えられたハンノキなどの雑木です。農業の機械化とともに役目を終え、見られる場所も減っています。</p> <p>登場する生き物 ●メダカ：池や水田の近く、農業用水の流れとともに暮らす里の魚です。北海道以外の全国に生息していますが、水田の整備や外来魚の侵入であまり見られなくなりました。環境省指定の絶滅危惧種。 ●スジマドジョウ：体にすじ模様のあるドジョウの仲間です。川や農業用水路の川底に隠れています。川と水田を行き来する魚で、河川や水田の改修によって生息場所がなくなり、数が減ってきています。環境省指定の絶滅危惧種。 ●アユモドキ：ドジョウの仲間、体がアユに似た日本固有種。川や農業用水路の岸辺や川底で水中の小さな虫を食べて生きています。日本の淡水魚の中で最も絶滅が心配されている種の一つで、岡山県と京都府にわずかに生息しています。国の天然記念物。 ●オイカワ：体長15cmほどのコイの仲間です。雑食性でもとに関東以西の川の中流や下流に生息しています。産卵期を迎えるとオスには鮮やかな婚姻色が現れます。 ●ナマズ：日本各地の川や池に生息する夜行性の肉食魚です。水田近くに遡上して産卵するため、川と水田を行き来できる場所がないと生きていくことができず、生息数は減少傾向にあります。</p> <p>◇亀岡市環境市民部環境政策課 TEL：0771-25-5023</p>
---	--

さわやか自然百景 取材日記



どこにでもあるように思っていた里の自然。それがいまでは見るのが難しくなっています。そんな風景を探して亀岡を訪ねたのですが、小さな魚たちの営みを探すのは本当に大変です。水路や川を探しても、慣れない目では、どこでいつ生き物が顔を出してくれるやら…。私たちだけでは途方にくれるところでしたが、幸いにも地元ではアユモドキを中心にした保護活動の輪が広がっており、多くの協力をいただきながら撮影を進めることができました。協力してくださった地元の方々は、みなさん川遊びが好きな少年のように、楽しそうに生き物を見つけては細かな特徴まで教えてくれました。やはり「身近な自然」は「身近」にあつてこそ価値のあるものなんだなと感じました。いま、こうした豊かな自然が残っている亀岡でも、水田の再整備や河川の改修が進んでいます。こうした風景がずっと当たり前のように残るように、ますます地元の方たちにがんばってほしいと思います。